

システムになろうかと思われま

す。病院改革を手がけているステューダー^{II}によると、医師は本質的に①医療の質、②仕事効率の良さ、③各方面からのフィードバック、④感謝の4つを求めていると言います。換言すると「質の高い医療を効率的に行えて、さらに、連携しているスタッフや機関からの協力とフィードバックを受けて改善が行われ、感謝されていることを（言動・報酬により）実感できる」ことが活動の強い動機づけになるというものです。

以上4つのニーズは、臨床医を志す学生であれば、程度の差はあれ意識しているように思われます。早期研修段階で、たとえば「高い診療技術獲得を保証するための機会提供」「慢性疾患に対応することの重要性や、そこで得られるスキルや知識」「軋轢解消に向けて関係機関が連携して力を尽くしている」「チーム医療における医師のリーダーシップ」「厳しいけれども、やり甲斐がある」など、「地域医療に携わるこ

とで4つが実現する可能性がある」と示されると、それが「ニーズ喚起」と「動機づけ」につながる可能性が高くなるのではないかと思われました。もし、ニーズを充たすものが存在しないのであれば、可能なかぎり補完される必要があるのかもしれませんが。

私自身は地域医療に携わった経験がありませんし、AIDMAは、7つあると言われるマーケティングの要素のうちの、プロモーション領域だけのことですので、机上の空論に過ぎませんが、医学生や家族としての視点から所感を述べさせていただきます。

- i グロービス大学院 公式サイトより
<http://gms.globis.co.jp/dic/00346.php>
- ii クイント・ステューダー著「エクセレント・ホスピタル」(ディスカヴァー・トゥエンティワン 2011年)

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

1. 原稿の締切
毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。
できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。
2. 原稿の体裁と字数制限
 - (1) 原則として横書きといたします。
 - (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
 - (3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。
 - (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。
医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。
 - (5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。
3. 原稿の訂正、返却
次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。
 - (1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容
 - (2) 匿名の投稿
 - (3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）
ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない
 - (4) その他掲載に支障がある内容
4. ホームページへの掲載
特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233
E-mail : ihou@m.dou.jp